

第6学年家庭科学習指導略案

日 時 令和2年 2月27日(木) 4校時

場 所 6年教室

児 童 6学年(男20名女14名 計34名)

指導者 高橋 豊

1 単元名「共に生きる生活」

2 指導計画 小単元①私たちの生活と地域(4時間)

②私たちの気持ちを伝えよう(4時間)

③考えようこれからの生活(2時間)

3 本時の指導(9/10)

(1)本時の目標

小中学生もお金を払ってもことやサービスを買う消費者であることやお金の大切さに気づき、計画的な使い方を考える消費者となる意義を理解し、よりよい生活を送るために実践しようとする態度を養う。

(2)展開

	学習内容と活動	教師の支援
導入 3分	<p>1 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>よりよい生活を送るために、自分にできることを考えよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・5年生時の学習「じょうずに使おうお金と物」や小単元①を振り返り、これからのよりよい生活について考えていくことを意識付ける。
展開 37分	<p>2 消費者生活について考える。</p> <p>(1) 消費・消費者とは何かについて確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お金やものやサービスを使ってなくすこと →消費 ・お金をはらって、ものやサービスを買う人のこと →消費者 ・小学生も →消費者 <p>(2) よりよい消費者生活を送るためのポイントについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・契約のルール ・商品の選び方を考えよう ・物を使うときに大切なこと ・ネットの使い方を考えよう <p>(3) よりよい消費者生活について、今からできること、注意することについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自プリントに書く ・グループで交流する ・発表する → 黒板にまとめる <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>お金を大事に使う ものを大切に地球にやさしく ネットに人をきずつけるような書き込みをしない ネットやゲームをする時間を決める 等</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・消費と消費者の意味を全員で確認する。 ・リーフレット(全国消費者生活相談協会 消費者研究所編集・発行)をもとに進めていくことを確認する。 ・グループ内で意見の交流をしたり、発表させたりすることによって、自分のこれからの生活についてより深く考えることができるようにする。

	(4) トラブルにまきこまれたり、困ったりした時の対処の仕方について確認する。 ・家族や先生、消費生活センターに相談する。	・リーフレットに消費生活センターの相談電話の番号を書かせる。
終 末 5 分	3 本時をふり返り、感想を交流する。 ① どんな活動をし、どんなことがわかったか。 ② 考えたことや感想はどんなことか。	・感想を交流することで、よりよい生活について、考えを深めることができるようにする。

4 児童の振り返りより

- ・今日の授業では、消費者という立場は、大人だけでなく自分たちにもあり、それが重要なことだということを知りました。
- ・小学生の自分お買い物をする事で消費者になっていることが分かりました。特にネットはよく考えてから使うようにしたいと思いました。
- ・消費者について学習して、危険は身近なところにひそんでいると思いました。
- ・今回の授業では、消費者としてどのようにお金を使えばよいか分かりました。
- ・僕はいつも安いものばかり買っているの、エコマークなど、自然にやさしいものを買いたいです。契約、電子マネー、商品の選び方、ネットの使い方などについて分かったので、これからはそれに気をつけて生活していきたい。
- ・今回学習して、改めてお金やスマホは上手に使おうと思いました。またルールなどを確認してできていないところはしっかりと自覚してお金やスマホを使いたいと思いました。
- ・自分がむだ使いをしていることが分かったので、次は考えながら、物を買ったり、使ったりしたいと思いました。また、スマホのルールやマナーなども分かったので、とても助かりました。
- ・インターネットを使うときや物を買うときなどは、まずそこで一旦ふみとどまって、本当に買っていいのか、本当に使っているのかなどを考えることが大切だと思いました。またネット上では自分の情報を悪用されてもいけないし、相手を悪用したり、相手が嫌がることをしたりしてはいけないと改めて思いました。
- ・まだ使える物は、できるだけ最後まで使ったり、商品の選び方は、できるだけ再利用のマークがついたものを選んだりしたい。ネットでは個人情報は送らないよう気をつけて利用したい。
- ・インターネットやゲームを使用する時は正しく使いたいです。もし被害にあったら、すぐ親などに相談したいと思いました。
- ・これからもお金の使い方に気をつけたいし、3Rも意識してやっていきたいです。
- ・ネットの使い方について、改めて安心して使えるようにルールは守ろうと思いました。
- ・もし、トラブルにまきこまれてしまったら、冷静に考え、親に相談しながら解決していきたい。今日の事以外でもふだんの生活の中で、物事が良いか悪いか考えていきたいです。
- ・よく考えてみると普段の生活で自分がお金をむだづかいしていることがあるかもしれないと思いました。買って自分のためになるものか考えてから買うようにします。
- ・電子マネーは便利だけど、便利の裏には、悪いことに使われることもあると思うので、中学校高校では気をつけていきたいと思いました。

5 考察

- ・消費者庁から出ている「消費者教育の体系イメージマップ」の小学生の重点領域をもとにして、消費者教育研究所の制作したリーフレット「小学生も消費者です」を使用しながら、6年の家庭科「共に生きる」の単元を実践した。生活をよりよくするために自分たちができることを考えていく中で、消費生活にふれ、本時の流れとなった。児童の多くはネットの使い方についての発表や感想が多く、「情報モラル」への関心の高さが分かり、さらなる指導の必要性を感じた。
- ・今回は単位時間の中に多くの内容を扱うことになってしまったので、消費者教育の観点から教科や領域等の学習内容を鑑み、扱うことが適切である単元や教材を見極めて計画したり(カリキュラムマネジメント)、児童の実態にそって重点事項をしばったりしながら、さらに実践する必要があると感じた。